山口県体育学会第 69 回大会

記

日 時 ： 令和 6 年 12 月 14 日（土）

10：00～ （受付 9：30～）

場 所 ： 至誠館大学 3 号館 311 教室

（〒758-8585 萩市椿東浦田 5000）

主 催 ： 山口県体育学会

（ホームページ：http://www.yamaguhi-taiiku.jp/index.html）

後 援 ： 至誠館大学

至誠館大学キャンパスマップ

※お車でお越しの方は、上記マップの駐車場にお停めください。

※体育館前は駐車禁止です。

―大会プログラム―

受　　付　　9:30～

開会の辞　　10:00～10:05

Ⅰ．一般研究発表（発表 10 分・質疑 3 分）

座長　青木　建（山口大学）

10:06～10:19

１．陸上スクールの設立・運営について（3 年次）

藤田昌彦（株式会社弥栄）

令和 4 年度より、陸上スクールを立ち上げた。その経緯、これまでの歩み、見えてきた課題、今後の部活動の地域移行による対応等々、様々なニーズと今後の方向性について、これからも取り組んでいきたい。（今回は、総合型地域スポーツクラブの設立、NPO 法人化等クラブチームとしての成長過程について説明）

キーワード：部活動、総合型地域スポーツクラブ、指導者、経営、NPO 法人

10:20～10:33

２．明治期の社交ダンスに関する研究

舩場大資（山口学芸大学）、小野隆洋（山口芸術短期大学）

明治期に井上馨によって鹿鳴館が建設されると、社交ダンスがそこで行われた。日本人にとっては馴染みのない文化であったため、当時の高等師範学校や大学にて社交ダンスの練習が行われた。その後、国定読本にも社交ダンスが採用された。本稿では、明治期の社交ダンスの様相を、映像で再現しながらどのようなダンスを踊っていたのか提示したい。

キーワード：社交ダンス、舞踏遊戯

10:34～10:47

３．大学生アスリートにおけるライフスキル獲得についての一考察

陳昱龍、岡崎祐介（至誠館大学）

本研究は,至誠館大学の体育系受講生のライフスキル（以下は LS と略す）獲得の類型化とその特徴について把握することを目的とする。2024 年 4 月に体育系科目を受講した受講生 93 名（有効回答：93 名.M:61 名,F:32 名）を対象としたアンケート調査を実施し、統計分析を行った。まずは性別による LS 獲得レベルの比較において性別間に有意差が認められなかった。次に体育系受講生は LS 獲得の特徴をもとにそれぞれ 3 つずつのタイプに分類された。今後の体育系授業展開について、「1 年生と 2 年生の LS 獲得の特徴が異なる」ということを理解したうえで、複合的かつ総合的なアプローチを模索していくことが必要だろう。

キーワード：大学生、ライフスキル、体育系科目、類型化、スキル特徴

座長　船場　大資（山口学芸大学）

10:50～11:03

４．保健体育科教員養成を意識した「体育史」授業の実践について

石立克己（至誠館大学）、近藤雄大（津山工業高等専門学校）

中学校および高等学校の学習指導要領において「体育理論」が必修化され、「体育・スポーツの歴史的発展」を中等教育段階で学習することが示されてから、10 年以上が経過した。しかし、先行研究によれば、教員の負担増や実技重視の傾向により、「体育理論」の実施率は依然として低水準に留まっており、この実施率を向上させるには、学習者が抱える課題意識の解明や、授業を担当する教員の育成段階における課題の特定が必要であると指摘されている。

そこで本研究では、2024 年度前期に至誠館大学で開講された専門教育科目「体育史（体育・スポーツ史)」の授業内容をもとに、保健体育科教員養成課程の学生が「体育史」に対して抱くニーズを分析する。また、学生のスポーツ経験を授業に反映させた「体育史」教育の在り方について検討を行う。

キーワード：体育史、体育理論、教員養成

11:04～11:17

５．中学校体育における男女共習授業の実践と考察 －バレーボールの実践における生徒の考える技能向上と心理的側面の観察－

實近琉聖（山口大学大学院教育学研究科）

入江航生（山口市立宮野中学校）、青木健（山口大学教育学部）

本研究は中学校での男女共習体育授業における「技能向上」と「関わり合い」の両立を目指した授業づくりを進める上で、各種目の特性もふまえつつ生徒の「身体的有能さの認知」と「受容感」に関する性差や特徴について探ることを目的としている。

本発表では中学 3 年生を対象に男女混合チームでバレーボール授業を実施し、授業後アンケート（112 名）から得られた結果を中心に報告する。概して男子生徒は技能向上を重視する一方、女子生徒は受容感あるいは技能向上を第一に求める傾向が確認された。

このことから男女共習体育授業においては男女生徒の意識の違いや、それらを考慮した上で各種目特性に応じた指導方法の検討の必要性が推察される。

キーワード：中学生、男女共周、関わり合い、受容感

11:18～11:31

６．「初等科体育」の受講学生における将来の授業担当の自信に関する検討：ハードル走の場合について

曽根涼子、山口奈々（山口大学）

小学校教員免許状取得を目指す学生を対象として、将来、小学校でハードル走の授業を行うことに対する自信とその理由について、大学における当該種目の授業の受講による変

化を含め、アンケート調査を行い検討した。

その結果、ハードル走の授業を行う学生の自信は、場の設定の仕方、走り方や動作、練習法や指導法などの知識をレポート作成で得るだけでなく、実技授業の受講によって理解を深め、習得することで高められることが示された、また、技能面では、示範できると思えるか否かが、授業を行う自信と密接に関係していた。加えて、運動・スポーツについて、元々、経験が豊富で、得意と思っていたり、好意的に捉えていたりすることは、ハードル走の授業を行う自信を高め、逆に経験の不足（定期的に行った経験がないこと）は自信を低くするが、過去の経験に関わらず、知識の習得や実技を行うことで自信を高められることが確認された。

キーワード：教員養成、小学校教員免許、アンケート調査

Ⅱ．特別講演

座長　岡崎　祐介（至誠館大学）

11:45～12:45

「部活動地域移行における萩市の現状と課題～これまでの取組と今後の展望～」

萩市教育委員会学校教育課　部活動改革推進室主任　藤原　昌隆　氏

全国的に公立中学校を対象に部活動を「地域クラブ」へ移行する取り組みが進められている。この部活動地域移行の背景には少子化や人口減少、学校における働き方改革、子どもたちの求める活動の多様化などが理由に挙げられており、今後学校単位では子どもたちの興味関心に応じてスポーツや文化芸術活動に親しむ機会を確保していくことには限界があると考えられる。

このような中でも、将来にわたり子どもたちがさまざまな活動に親しむことができる機会を確保するため、地域の特徴を活かした部活動改革が行われている。

こうした状況を踏まえ、部活動地域移行における山口県や萩市の方針を整理するとともに、これまでの取り組みや今後の展望について考えていく。

Ⅲ．総　会　　12:50～

報告事項

1.令和 5（2023）年度会計報告

2.令和 6（2024）年度事業および会計経過報告

3.令和 6（2024）年度日本体育学会報告

4.その他

協議事項

1.令和 7（2025）年度事業計画について

2.令和 7（2025）年度会計予算について

以上

【　演者の方へ　】

➢パワーポイントを使って発表される演者の方は、PC（OS: Windows）とプロジェクターをこちらで用意いたします。ただし、ソフトは、PowerPoint 2016 ですのでご注意ください。

➢ プリントを配布される方は、資料を 30 部ほど各自でご用意ください。

➢これら以外の方法で発表される方は、事務局までご連絡ください。

【　参加者の皆様へ　】

➢大会参加費は、無料です。

➢山口県体育学会会員の方は、年会費（￥2,000）の納入をお願いします。

➢本学会への入会を希望される方は、ホームページの「入会案内」をご覧ください。

【　お知らせ　】

『山口県体育学研究』第 68 号への投稿を募集しています。

なお、投稿についての詳細は、『山口県体育学研究』の「投稿規定」をご覧下さい。

山口県体育学会事務局

〒758-8585　萩市椿東浦田 5000

至誠館大学現代社会学部岡崎研究室内

電話 0838-24-4000（代表）

FAX 0838-24-4090（代表）

E-mail：y.okazaki@shiseikan.ac.jp